

よい語り わるい語り ものがたりライブが終わったら

以前、小学校でものがたりライブをさせてもらったとき、こんなことがあった。

いつものようにチャイムが鳴る五分前に語りを終わらせ、「わらぶき屋根の家」とか「一年生はいじわるで」とかのとなえことばで遊んで「はい、おしまい。またね」と頭をさげた。床にペタンとすわった子どもたちは拍手をしてくれ、司会の先生の「はい、みんな、立ちましょう」の声でたちあがった。ことば遊びの後だから子どもたちは、今、覚えことばを忘れないようにここにこと言いあっている。

そこにいきなり司会の先生の怒声が飛んだ。

「はい。みんな、もっと、きびきび立ちましょう。もう一回すわって！」子どもたちは驚いて口をつぐんで急いですわり、2度目の「はい、立ちましょう！」の声に無言でスクッと立ち上がった。

その一瞬で、ここまでぼくが45分かけて作ってきた

「ものがたりを聞くのは楽しい」という空気は消えてしまった。

先生にも思惑はあるのだろうが、子どもたちはにこにこ余韻を楽しんでいただけなのになんで叱られなければならないのか、さすがにあれは横暴だと今でも思う。

さて、このとき、先生が「はい、立ちましょう」と言ったのはこのあと、先生が号令をかけて、ぼくに向かって子どもたちが一斉に「ありがとうございました」と言わせるためだ。

そのたびにぼくは少しとまどう。

しかし、ここで異を唱えると、空気がこわれるし、先生もこまるだろうからと、その挨拶をうけ、「はい、どういたしまして。みんな、元気でね」と極力、日常のいいまわしで受け答えして会場を出るようにしている。

ぼくが部屋から消えないと子どもたちもひきあげられないから、ここはさっさと出る。子どもたちの端を通過して退場する時、手をだしてくる子がいれば、ハイタッチなり、握手したりもする。

そういうちゃっかりした子は嫌いではない。期待には応える。

さて、それにしても学校でものがたりライブが終わった後、子どもたちに「ありがとうございました！」と声をそろえて言わせるのはなぜなのだろう？

「なにが大事か」という順番があきらかにまちがっている。
そんなことは図書館や大人たちの集まりでは絶対でない。
そんな文化はないのだ。
なにかの強要があったら、退場するとき、司会者が「みなさん。杉山さんにもう一度、拍手をお願いします」なんて言うことがあるくらいだ。
で、拍手には、もともとことばに代わる「お礼」と「賛辞」の意味が文化としてあるからこれはありがたくお受けする。

ぼくとしては、ものがたりを聞いた後はその後味を楽しみながらひきあげてほしい。
ぼくたちも、いい芝居やコンサートのあとは知人と、途中できづいたことや感想をいいあいながら帰り支度をして席を立つ。
他の人もそうしているからガヤガヤするが、
その笑いさんざめく光景は決して悪いものではない。

なんでもかんでも静かできびきびしているのがいいというのは、あきらかに勘違いだ。

で、ぼくとしては本当は話を終えて「おしまい」と頭を下げたあとはスッとひっこんでしまいたい。
実際、そうしたこともある。

そうしたら、先生が廊下を追いかけてきて、「すみません。生徒代表のお礼のことばがあるので、お戻りください」とひきかえさせられた。
お礼のことばというのなかなかむずかしいようで、一度、ぼくがずっとステージでもものがたりを語っている間、1人の生徒がぼくの話も聞かず、後ろの方で先生と2人でなにやら相談をずっとしていると思っていたら、終わった後ぼくに言うお礼のことばをまとめていたのだった。

ちゃんと「ぼくは今の話の〇〇のところが一番おもしろかったです」といういいまわしが入っている。

そこをまとめて暗記していたのだろう。

かわいそうに、話を楽しむどころではなかったろう。

でも、申し訳ないけれど、それは本末転倒だ。
むりやり、おもしろかったところをさがす必要はないし、それを急いでことばにしなければならぬとしたら、それはむしろ残酷なことだ。

人はいただくものはどこかでちゃんといただいている。
そして、それがことばに置き換えられるのはずっとあとだったりする。。

では、会を終えた後はどうすればいいか？

ぼくとしてはこうしてほしい。

終わった後、なにかしないと終わった気がしないというか、すわりが悪いのはわかる。

で、もし、感想とお礼を言うなら、司会の先生が自分のことばでお礼と感想を述べてほしい。

その感想が的確だとぼくは同志に会えたような気がして嬉しくなる。

先日も「みそもらい」をしたあと、

あるおかあさんから「最後におばあさんが鍋にみそを入れるしぐさがじょうずでおかしかったです」とほめられた。

しょうもない下ネタ話だが、そこは意識してしているしぐさなので、いいところを見てくれたと我が意を得たりの思いだった。

だいたい、子どもは人をほめるとかお礼をいうとかのサンプルを知らない。

ボキャブラリーがたりないから「おもしろかったです」と

「ありがとうございました」ばかりになってしまう。

ここは先生が生徒に

「こういう時はこういうふうに挨拶するんだ」と背中で教えたらどうだろう？

だからなにかいうなら司会の先生が手短に言ってくれて、

子どもたちには「杉山さんはまだしばらく学校にいるから

自分で感想やお礼が言いたい人はつかまえて言うといいよ」と、水を向けてくれればいい。

「ありがとう」は個人個人でいうものだ。

そのことを先生が教えてあげてほしい、と思う。